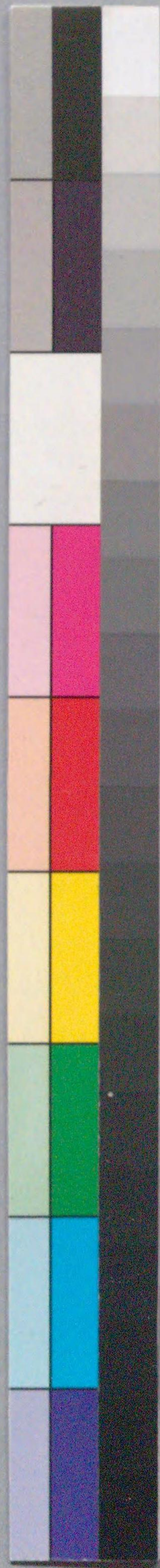




国立国会図書館 縁結月下菊 3編 208-714



ガラス使用



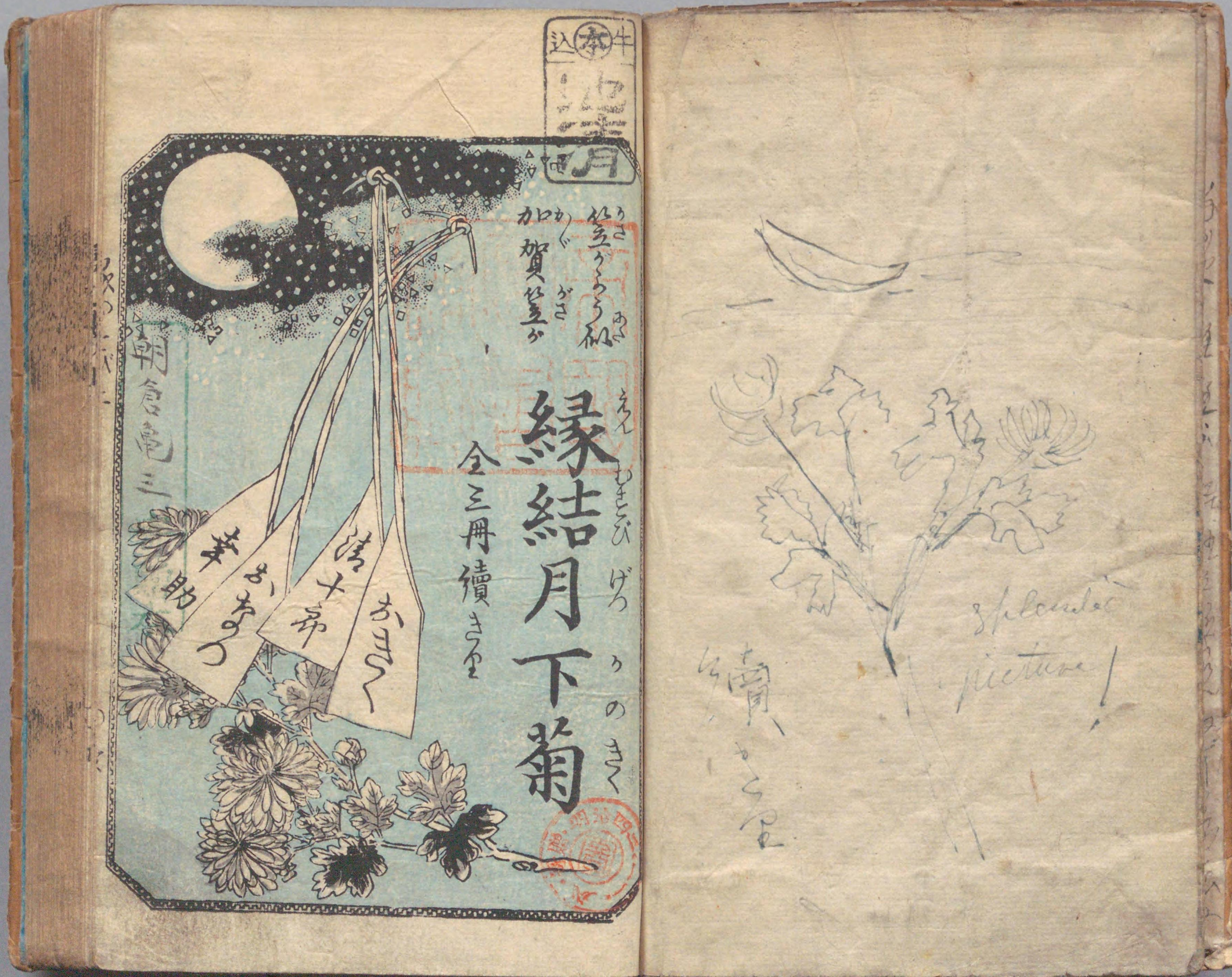
208
2
714

手紙
 桂屋六
 桂屋三
 桂屋四
 桂屋五
 桂屋六
 桂屋七
 桂屋八
 桂屋九
 桂屋十

国立国会図書館 縁結月下菊 3編 208-714

ガラス使用





込本牛
池
月



縁結月下菊

全三冊續き

朝倉三



splendid picture!



近曾女が繪草紙に人名を書換て宿世談の如
 なる事あり現在人の名を就素とある人も
 此れをよむとてと茶をさぐりていふ
 少時ありてはぬ婢等と志すり小笠原の
 何れと問ふ。それゆゑ妻の遣ひて西人ありと答
 へし。思ふに果と先氏「爲とよき事」も夏と幸助
 「お菊と清十郎」あり。黒と先氏の志すりては
 お菊のまゝにひの由縁何事なりとて例の善根

話成作り女お見せしるがその丹子あり。この破
 拵んや思ふ物から予原本連筆あて
 この僅の物等を綴るふぶ不敷く消えぬ
 反古おせんもつらとて連玉堂おかてらひて
 からの物。自下の菊と題せし菊の異名を
 菊草とよむ。下老人の縁語よみてあり
 不保己責方冬修紫楼上よ

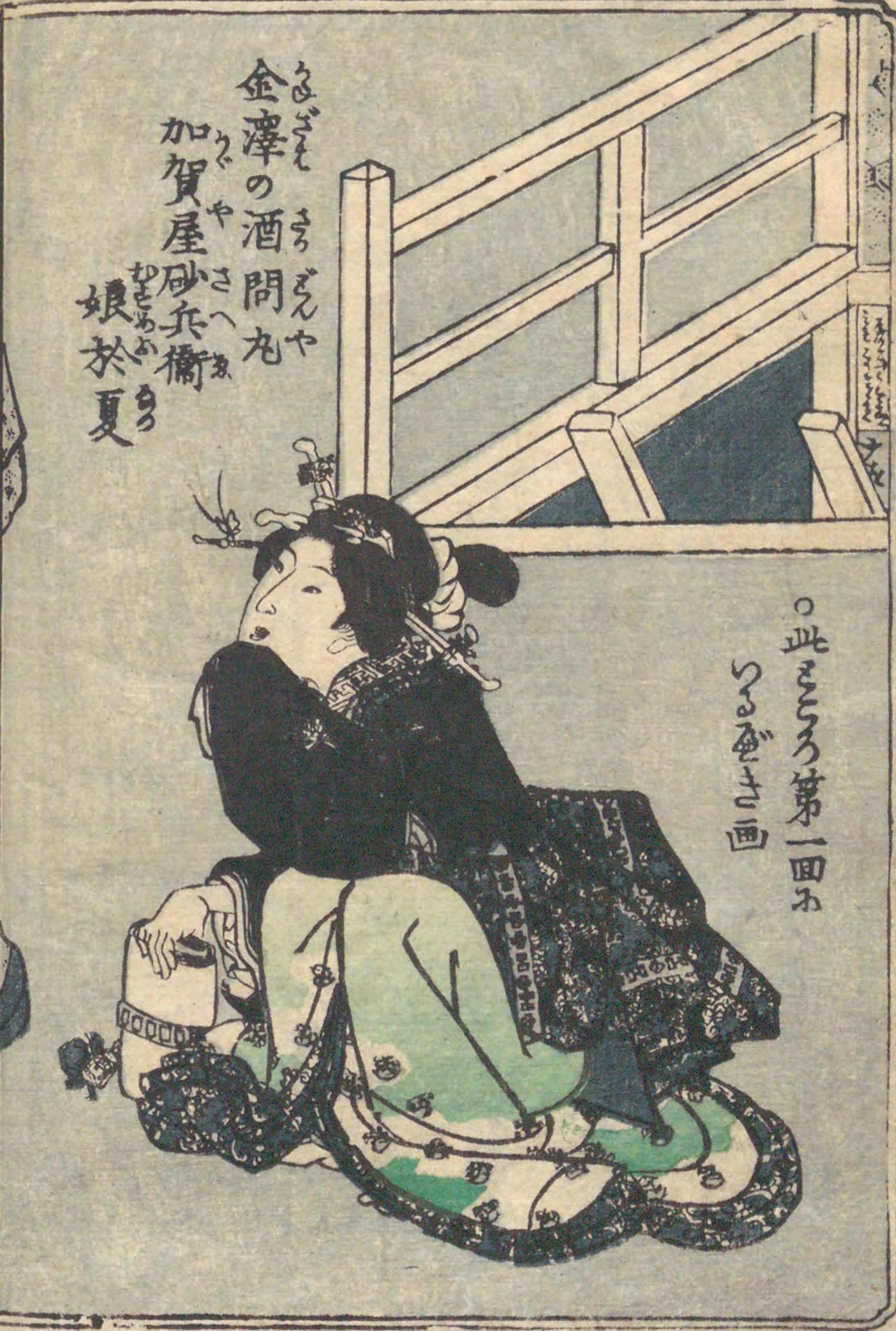
柳亭種彦誌





駕籠屋の
女房お福

加賀屋
手代幸助



金澤の酒問丸
加賀屋砂兵衛
娘於夏

此の巻第二回





鎌倉米町の
米問屋但馬屋清十郎

女房
勘七

糴吳服屋

縁結び

四



處女
阿菊

此
二の巻
第四回の
画

縁結び



7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

附言

予娘の小方といふ中本を綴りて文化丙寅の夏めて二十四年
をわらうぬ思ふがまじきかなあう今うのとて老ふを我
かりろのまじきびるれば時好むありてこれまづこの草紙の
又紙の文字も入るまれば益をうらう人のあふまればはらうまじ
人のたれども罪なき悪人多し健母後子の中むらましくたひひか
せーのまればまづこの人のまじきをうけし者もほを夏多後葉の
かまじ言ひむまじあむのらあて死あんと思ひし人もまじき氣あひの
まじきひの姪あて痛人のまじきあうし金銀あうしまじきまじき
空城まじき怪談のまじきあうし十郎がまじき花のまじき賊をまじきまじき
あまじまじき事まじきそれ倍して後まじき利を得るまじきまじき夫婦と
るり両家まじきまじきまじき子振方のまじきまじきこれまじきまじき
是例のまじきまじきまじきまじき

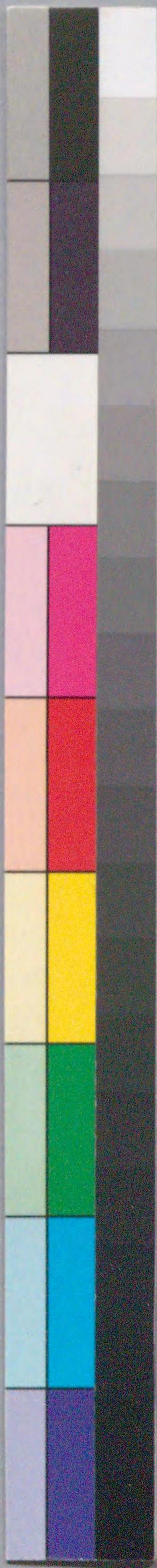
縁結月下菊巻の上

柳亭種彦著



一 駕籠で送嫁名

昔の花の鎌倉まじきその製昌あむかまじきまじき棟門高き
武家商家當地ふ居銘の輩の隣困るまじき最近く便
まじき地の金澤まじきまじき家をまじきけし此所も
名妻の都まじきまじき田舎道は堤を向まじきけし方ハ
町まじきありまじきまじき草舎からまじきまじき板金扱も

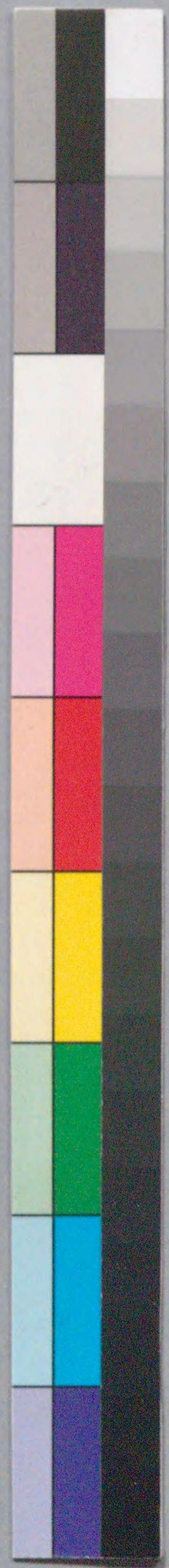


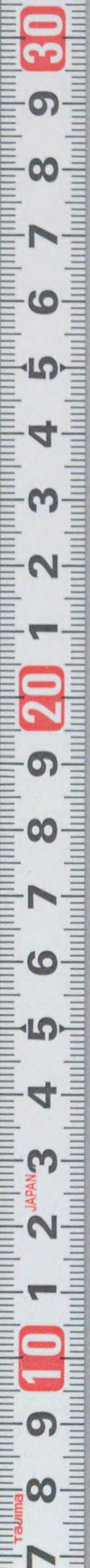
Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy or a specific dialect. The text is arranged in vertical columns on both pages. The right page contains approximately 10 lines of text, while the left page contains approximately 12 lines. The ink is dark and the paper is aged and yellowed.



みせらるゝそのまゝあつらひらるゝのりもをぬらわぬがら
まづしつゝまじらう縁それま助ごんじつまじい「いね」
るをちつと例のま下戸と「口」のまじらうから考へまじら
しむるまじらひらひらまじらぬも福ごんじつまじらまじら
からあまらまじらまじらまじら「昨日」のまじらまじら
はうまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
おれが跡まじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
おれもまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら

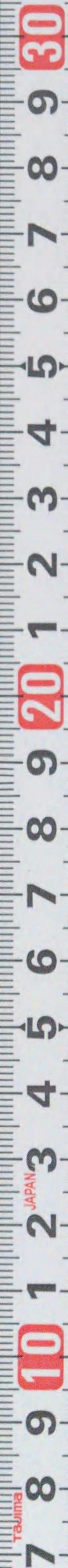
かろめららるゝまじらまじら功者まじらまじらまじらまじら
息子まじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
あげまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
そのまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
年のまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじらまじら





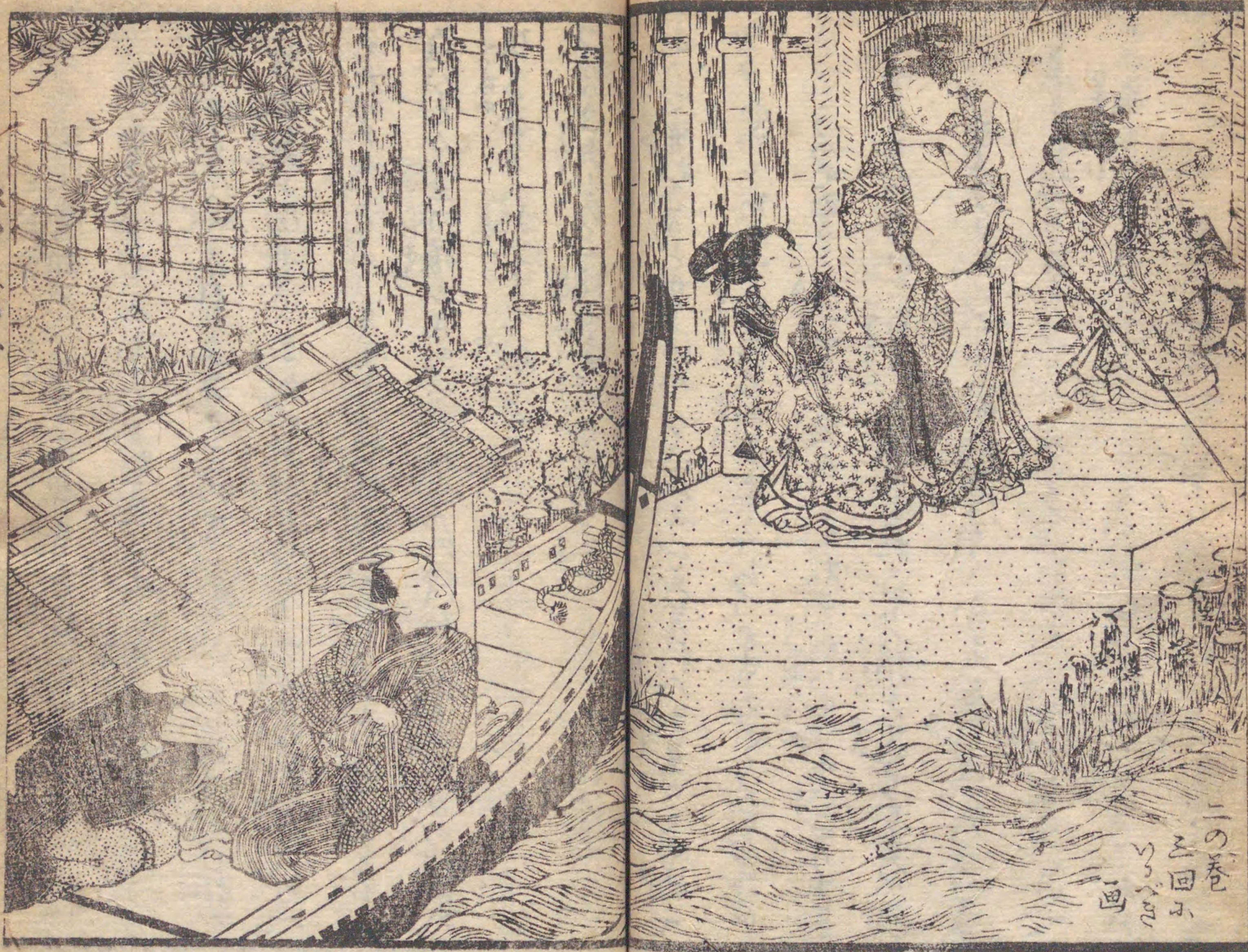
事をいもむる後をとりまよしそむしやとていふとてはしつ
 今のやまのちよもむらられていひまはしつ。ういふはつら
 幸助の熱鎮じ三男があらから承知まらうとていふ今幸
 助といふの汝世せひつと親が不給むとそれていふは孫
 ふイヤのいひのまよまらうのと親のめあがあらうもなれる
 うれが自らふおやいふるの幸助といふの親の親のふ
 おろてあううそれを主人の我意よかれれりつてを理お
 りらふも申意で移入るまらうとていふをばまらうておれ

くれろられが宿の加茶川の滝の橋を右へまらるとちま
 ころと歩自身おまへの借文をおかへるつて名前を
 まらうとていふころころ幸助といふ昨日あまへの内へつてまら
 う大越びさうおがゆとていふころとあうとていふわら
 泣く子を合せて辞まぬまらうその子を直形振よおを
 あーヤとお只今からまらうころころいひのまらうとていふ
 まらうとていふころころいひのまらうとていふころころ
 まらうとていふころころいひのまらうとていふころころ
 うちの苦勞もあまらうとていふころころいひのまらうとていふ
 ころころいひのまらうとていふころころいひのまらうとていふ





男おとこの不ふ男おとこからいひつゝおちられたものう今度こんどの所ところにあれ
 事ことをとりあへずいひつゝとお供ともがたれたる身みが
 力をあつていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 お福ふくもあつていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 お人ひとへのいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 一ひとふふこれをあつていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 知しつてゐるものう徳とく倉くらの末すえ町まちで住すむとといふ米こめ回まわり事ことなるが
 代しろの通とほり名なられハ又またいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 一ひとふ守まもつて居ゐるものういひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 一ひとふ所ところもいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 ても刻ときがよまれを買かつておく琵琶びわ持もつ官くわんもあつていひつゝいひつゝ
 といふ所ところのあつていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 一ひとふその身み子の清せい十じゅう郎らう今年ことし二十五にじゅうごでいひつゝいひつゝ
 女郎ぢやうらうのいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 かう十七じゅうしち八はちかり僅わずかの百ひゃくふふおちたもいひつゝいひつゝ
 いひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
 いひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ





嬉しくその。大きき秋をして今のあつるよごるを毒せ。後で
 考ればぞおわづらむが邪廉ごらう。そのあつるよごら
 イマ我侯の志をうごら。それがか入つて可きくうつらまアよ
 後、六遠きあつるあつちもあつる。とらちもあつる。継母だ
 るもあつる。バ継子ごら。狂あつるを育てられ。癖、今、お
 やまよと騒ぐいそしてあまへくれ。そのをみごらう。と、あつち
 かうふまごら。紙書と返事をうごら。その後、うら。母の者、お
 りひつけてごらう。子を合せくられる。それで、を、掃く。あつち、
 とまきく。男もうら。ね。年うの。店、勤定み。け。う。お。宛。延。よ。

一、あ、く、同、ド、人、る、で、と、う、こ、と、ら、ろ、が、仕、方、が、多、う、と、ま、よ、あ、つ、ち、の
 歩、勤、当、へ、一、紙、ご、ら、あ、つ、ち、が、あ、つ、ち、ま、よ、内、へ、つ、ち、の、ら、ね、
 一、そ、う、て、先、年、二、ス、リ、ご、ら、う、身、う、け、を、ご、ら、う、る、さ、れ、ば、ご、ら、う、
 今、ご、ら、う、ま、ん、お、も、る、う、ご、ら、う、あ、つ、ち、で、あ、つ、ち、あ、つ、ち、あ、つ、ち、
 の、あ、つ、ち、の、ご、ら、う、の、ま、年、ま、ご、あ、つ、ち、信、州、の、大、老、へ、入、入、を、さ、せ
 て、あ、つ、ち、ご、ら、う、へ、列、宗、も、お、ま、ま、と、い、お、つ、ち、あ、つ、ち、持、つ、あ、つ、ち、
 一、あ、つ、ち、が、孫、持、ち、の、お、ま、ま、ご、ら、う、ヨ、か、ア、ご、ら、う、ご、ら、う、ご、ら、う、
 宗、ま、い、ご、ら、う、ま、い、ご、ら、う、
 宗、ま、い、ご、ら、う、
 宗、ま、い、ご、ら、う、

宗のこへ中

○月



五

五

一とある娘は おのれ 一とある娘は おのれ 一とある娘は おのれ
これほど おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 点 おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 安 おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 を おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 こと おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 京 おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 り おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 移 おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ

女の おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 の おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 あ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 ら おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ
 他 おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ おのれ



彼のいさゝらの下女お菊のまゆつげと字づらひ婚を
 りごころのお桃おをわらふのとまめる廻をつららうその
 かまうあへ産で招明物ぢやアとごうません「廻家ハ継言の外
 小骨董言がまのうらゝむぐりのごうごもなまふのころなま
 一がぢごのあれとまゝとるると前が合て傷中が何ぢらちんとも
 見へねくありこち袂をひらりひらりと脱せよと三日の後
 あらむと廊中の者おんせとて道中あらんとてとてさういふ
 のりもあぶるるがまゝとるのこのごうごもなまふのころなま

忠告ののちの梅川みゆくゆの一倍より一書をよむ
 のうゆふのこのうの男の教が見て入るゝとていふは苦
 勞もあうごうイヤモウ苦勞おのりおのりといふと今おのり
 ねんとも向横顔のさへでもごうごもなまふのころなま
 ぢごもあひひたごうねんてそれでもなまふのころなま
 鯉でも釣むらゝみぢごののりごうごもなまふのころなま
 ひをぢごもなまふのころなまふのころなまふのころなま
 像を見つゝ紅梅と書い「まゝとるるがまゝとるるが



ませうら ⁺ *Family* の *評判* ^{ひやうばん} *は* *あ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
わ *く* *そ* *こ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
松 *を* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
つ *す* *え* *い* *か* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
め *い* *と* *思* *ひ* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
ね *ん* *が* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*

ち *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*
あ *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ* *の* *あ* *ら* *わ* *れ* *た* *ま* *へ*







りり。ん 行ぐくれと又あぬをほつてなれま〜しうなもま
 かろくもやなれまむと持〜ま〜しうなもま
 返るを〜しうなもま
 てあぬを〜しうなもま
 見ぬ〜しうなもま
 ま〜しうなもま
 分へ年むりあつてあ〜しうなもま
 るふ勤め〜しうなもま

幸助みさつ〜しうなもま
 金かやと〜しうなもま
 ござん〜しうなもま
 く竹塚不海苦庵栄垣化〜しうなもま
 扱び不参通〜しうなもま
 居てやらう。それい〜しうなもま
 「あ〜しうなもま
 ける〜しうなもま

縁の〜しうなもま

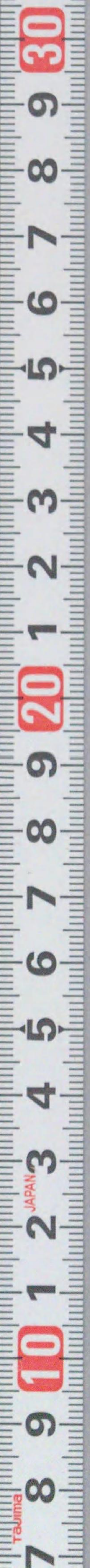
〇〜しうなもま

舞入の通へ〜ヤシ及ト葉田の舞をいさげしく鏡を
 毎敷直しては千舞の葉を舞ひ入るるまじりつとあつたを
 舞の舞もげ窓の工合りさうぢや西まはるるせせいの舞
 ねがさんせいの舞いさうのさうぢやあまの舞いさうの舞
 はくろひさうぢや顔見合らとさうぢや〜もあつたさうぢや
 幽みのさうぢや〜さうぢや〜と清十郎もいさげしく
 やあつてあつたさうぢや〜とあつたさうぢや〜何うもあつた
 まあつたさうぢや〜とあつたさうぢや〜とあつたさうぢや〜

と舞入のは交通船をいさげしく〜とさうぢや〜といさげしく
 お月あかりのお影をいさげしく〜とさうぢや〜といさげしく
 一とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 ぞあつたさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 くさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 そとさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 りひうけてさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 めあつたさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜
 すとさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜とさうぢや〜

長門の舞

〇十二





後世に...

いづれにせよ... 名を改む... 母が得る... 兄の久... 義理で...

見いご... けいから... であつて... 何れも... 平けい...

後世に...

...

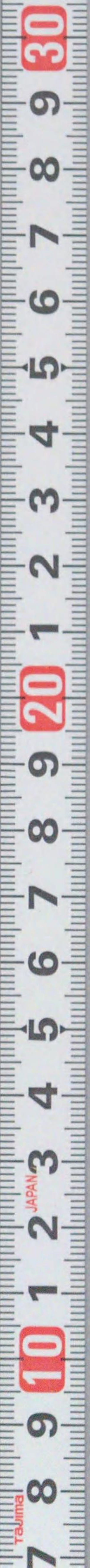
ガラス使用



ちぢうの所へ入るぬと直は後被修ぬその河縁の掃菰
 をもちまゝも前世の福業といふはゆゑにせしむ
 が折角あるのみかかゝるものかゝるものかゝるものか
 せぬかゝるものかゝるものかゝるものかゝるものか
 人の口はれぬふかゝるものかゝるものかゝるものか
 あまゝ人聲をこゝろは千尋の曲はれぬあまゝの料簡
 あまゝの心もまされまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 決れまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝの心はまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
 まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに





此のやうくあるをみる一々かゝるにいとほひのひびきもくもく入るのひびきもせし
 入るうとせられしやふ又一つうつしつらふはたのひびきもくもく入るのひびきもせし
 一それでも母があんどもせしう一しんサそれどもくもく入るのひびきもせし
 いらりそくそくもくもく入るのひびきもせし
 まあつませうそのまふも、艦もちりりともお教もせし
 それで海もせしうとてんがまありまう一うまう二具の俵り
 まして九の俵りうのと又船をつげませう女中ふもあか
 くらむされお一人りてこりそのととひひりめてもち雨ハ
 一吐息のこしを答る一〇這入口の小格子あお其の物を押

並べ物をかきりの總阿がら。段階お孤押入の裏お仕込
 三丁の杓脱四尺の佛壇。三具足のお徳不老も放てど全
 力をいごまて目ごぬ分銅壺お籠の紫へ真縁を摺行
 の鉢巻へ竹箆さる。青心佐のかざ紙お湯お細心の引目を
 うちり古風の簀無お所うしるもごるけ家のうを人を推とのふ
 不彼せり呉飯お助さるり今日お他おの留さるへ女おか
 みるが夜並の縁おをかぶるがう物尺で吾眠る下女の
 裾の下こそごらて一おえやく一たのたのぢやアお入り

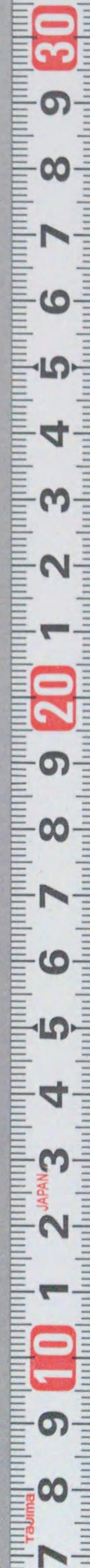
女の足下

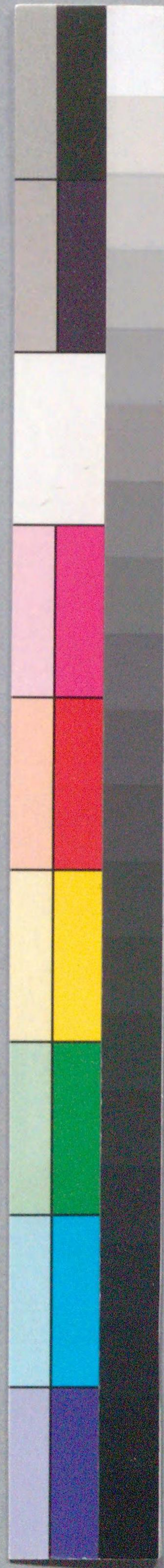
1111

208
2
714

国立国会図書館 縁結月下菊 3編 208-714

ガラス使用





国立国会図書館 縁結月下菊 3編 208-714



ガラス使用

